自主的に創られた戦後新教育の貴重な実践の記録

『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集』編者対談　金馬国晴（横浜国立大学教授）×安井一郎（獨協大学教授）

先ごろクロスカルチャー出版より『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集』第一回配本（東日本編）（全三巻）が刊行された。一九四八年から五〇年代前半にかけて、全国各地の主に小学校で実践された総合的カリキュラム、「コア・カリキュラム」の研究記録ほか副子類を網羅した資料集である。ここには今や全国に一冊しか残できない貴重な資料が多数含まれている。本書を手がかりに、コア・カリキュラムの意義や実態、その今日的意義などをめぐって、編者の金馬国晴氏と安井一郎氏に御対談いただいた。（編集部）

コア・カリキュラムの貴重な冊子類とその所在、設遊

――『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集』の刊行に至る経緯についてお伺いします。

金馬　私は戦後初期の教育史の研究を続けてきました。修士論文から、判明された本や雑誌をもとに実態や特色、運動史の研究に入ったのですが、なにぶん断片的なものしかなくて、全国的な動向がつかめないところがありました。

十五年前に横浜国立大学に赴任してから、戦後初期に学校が作っていた冊子を系統的、網羅的に集め始めました。とくに、戦後初期のコア・カリキュラムを作られた学校の先生方へのインタビューも、教育史研究者の中野光先生に紹介していただいたりして、いくつか出掛けました。いただいたりもしました。

同様の冊子は、各県や市の教育研究所、教育センターが持っているはずだから、探してみたいと思いながらも、なかなか手が回らずにきました。冊子のありそうな各学校に連絡を取るための、何十枚も刷ってコピーさせていただきました。青森、岩手、秋田、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、長野、富山、石川、福井、岐阜、愛知……。研究者にも、自分の論文に活用したりするために大量に持っている方がいて、それらを活用しました。

こうして全部で千冊を集めていただけですが、とても貴重な冊子類、より多くの人の目にふれるものにしたいと考えるようになりました。

安井　私がお世話になった長野県や名寄教育の山口満先生が、前任校の宮城教育大学で、奈良西部プランというユニークな実践について資料を集めていらっしゃいました。それで一緒に研究してみようと意気投合したのです。

学力だけでなく問題解決力をつける。そして総合学習の時代へ

――コア・カリキュラムに対しては、「はいまわる経験主義」や児童中心主義、学力低下の元凶といった批判がなされたようですね。

金馬　当時の先生方や○○氏にインタビューしても分かったことがあります。それは、学力低下を気にしていなかった先生や学校も実はあったということです。そうした批判はむしろその雑誌のレベル、または研究会の論争レベルにとどまっていた、例えば、「学力とは何か」ということを大きな話になってしまいますが、コア・カリキュラムで指導された先生方の中には、自分たちが必要だと思っているもの、今後にいる問題解決力がつくと考えられる、それに対して、「戦後新教育」を批判して、コア・カリキュラムが学力低下の理由と批判されました。

今でもそうで、一般的に学力というとテストで測定できるものを考えがちです。そうやって学力が数値として出てくるわけも、現場の先生方の多くはもっと違うところを見てほしいと考えていたのだと思います。

ですが、やはり時代は変化していきます。いちばん肝心のうった昭和二五年に朝鮮戦争が起き、一気に戦時色が強まっていきました。その頃は子どもたちに徹底して国主主義教育をすることが、昭和二六年の国内風景がそうなり、昭和三十一年の「経済白書」では「もはや戦後ではない」といわれるように、経済成長の論調をつかんだ、そこで教育に求められるものもおのおのいって、コア・カリキュラムが目指していた問題解決能力よりも、従来がすぐに教育に出てる学力のほうに住民が集まりました。

金馬　コア・カリキュラムに対する「学力低下」批判とは、明らかにこの時代の変化に乗っかった勢力によるものだったのですね。当時、学力調査が行われますが、それはだから新教育の成果を示すものとして、文部省や教育委員会が大々的に発表していました。

安井　コア・カリキュラム研究資料集の刊行は、今回の複刻版に加えて、今後の出版予定はありますか。

金馬　コア・カリキュラムはアメリカ由来のものですが、その展開は日本独自の特徴ある実践カリキュラムというか、統合カリキュラムとして注目されます。

安井　コア・カリキュラムについての先行研究や、大学のテキストの記述は一面的だったというのが私の感想です。当時からアメリカの模倣だといわれていましたが、各学校のカリキュラム実践でいくと、多くは違った独自な展開をしていることが多くあります。

当時の状況を先行研究や推察してしまった部分も、自主的な学校が見なかったこともあるでしょう。昭和二〇年代前半にいろいろな学校で作られたプランから、たかにアメリカの影響に立脚していたものと、考えていたこと、思っていることを、自分たちのやりたいこと、その実感と照らし合わせたりしていた、この資料集を読んでいただくと、その実感と照らし合わせたりしていた、この資料集を読んでいただくと、その実感と照らし合わせたりしていた、この資料集を読んでいただく